

第2次八代市地域公共交通計画(案)

- ◆「八代市総合計画」を上位計画として、「公共交通の充実したまちづくり」を推進していくための計画として、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」等に基づき策定するもの。
(国の補助を受ける場合には対象となる系統等を本計画に位置付ける必要あり。)
- ◆現「八代市地域公共交通計画」(令和2年10月策定)の期間満了に伴い、現計画で解決に取り組んできた公共交通の諸課題に継続的に対応しつつ、新しく生じた諸課題の解決を図り、「八代市総合計画」に掲げる将来像の実現に寄与する公共交通体系の構築及び確保・維持を目的とし、策定する。

対象地域	八代市全域	計画期間	令和8年4月～令和13年3月(5年間)	
上位関連計画に示されている将来像や、まちづくりの方向性、公共交通に関する施策等を踏まえ、地域公共交通のあり方を設定			将来ネットワークイメージ	
生活を支える	市民の多様な移動ニーズに対応し、日常生活を支える公共交通			
地域を支える	地域の暮らしを支える公共交通			
まちのにぎわいを創る	中心市街地の活性化や観光振興によるにぎわいを創る公共交通			
新しい社会に対応する	新しい社会生活に対応する公共交通			
環境を守る	環境にやさしい公共交通			
みんなでつくる	市民、事業者、行政が連携してつくる公共交通			

第2次八代市地域公共交通計画(案)

地域公共交通の課題・基本目標・施策・評価方法

関連する問題・変化	課題	計画目標	施策	評価指標	現況値	目標値	目標値の考え方
					R6	R12	考え方
【問題】人口減少に伴う公共交通需要の縮小 【変化】公共交通の再構築による利便性・生産性・持続可能性の向上	【課題①】今後の人口減少を見据えた公共交通ネットワークの再構築	【計画目標1】地域間の交通ネットワークを維持するため、効率化を図る	【1-1】公共交通ネットワークの最適化	中心市街地と連絡する路線数	8路線 (日奈久/坂本/鏡・千丁/東陽・泉)	8路線	現状維持
【問題】実証段階にとどまる新技術の活用 【変化】新八代駅周辺や、県営工業団地開発に伴って新たな需要が創出	【課題②】新八代駅周辺、県営工業団地の開発に伴う新たな移動ニーズへの対応	【計画目標2】新たな移動ニーズに応じた交通サービスを提供する	【2-1】開発動向に応じたバス路線網の見直し 【2-2】開発地における新たな移動手段の導入検討	開発地への路線の新設・ルートの見直し 開発地内での移動手段の導入	— —	1ルート以上 1つ以上	開発にあわせて対応 開発にあわせて対応
【問題】将来の運転に不安を抱える高齢者の低い公共交通利用率 マイカーの利用がさらに進み、公共交通の利用率が低下	【課題③】移動制約者や交通不便地域の移動を支える	【計画目標3】地域の身近な移動手段を確保する	【3-1】地域との協働による地域内交通の維持・改善	地域内交通の維持(各地域での乗合タクシー等の路線数) 「交通空白」の数 ※R7.4に国に申請している地域	18路線 (日奈久/坂本/鏡・千丁/東陽・泉) 4地域	18路線 2地域	現状維持 熊本県公共交通計画のKGIに整合、坂本/千丁・鏡地域で解消
【問題】実証段階にとどまる新技術の活用 (再掲) 【変化】高齢化や2024年問題を受けて、運転手不足が深刻化	【課題④】運転手不足への対応	【計画目標4】公共交通維持のための輸送資源を確保する	【4-1】運転手確保に向けた支援 【4-2】多様な輸送資源の確保	路線バスの運転手の数 地域の輸送資源を活用した取組件数	51人 (R6.9月時点) 1件	54人 3件	必要数を確保 1件/2年間で導入
【問題】人口減少に伴う公共交通需要の縮小 (再掲)一部地域からの中心部までのアクセスの不便さや、中心市街地での移動の不便さ 【変化】地域における鉄道の利活用の推進	【課題⑤】公共交通の維持に向けた利用促進策の展開	【計画目標5】公共交通の利用環境を整える	【5-1】交通結節点の整備と機能強化 【5-2】市街地循環バス・乗合タクシーの運行改善 【5-3】バス停の待合環境の整備や案内の充実 【5-4】情報発信やイベント等の利用促進策の実施	路線バス・乗合タクシーの利用のしやすさ 鉄道利用者数 【八代駅の乗車人員】 【新八代駅の乗車人員】 一般路線バス利用者数 市街地循環バス利用者数 乗合タクシー利用者数 すーぱーばんぺいゆ号利用者数	17% 1,690人/日 74.9万人/年 25.5万人/年 21万人/年 3.6万人/年 3.7万人/年	27% 1,690人/日 74.9万人/年 25.5万人/年 21万人/年 3.6万人/年 3.7万人/年	前回R1調査結果27%を目指す 人口減少下において現状維持を目指す
【問題】市民一人当たりの公共交通への財政負担が増加	【課題⑥】財源の有効活用と公共交通サービスの効率化	【計画目標6】効率化を図りながら、限られた財源の中で公共交通サービスを維持する	【6-1】持続可能性を高めるための収支の改善	市民一人当たりの財政負担額 市街地循環バスの収支率 乗合タクシーの収支率	243 28.3% 4.0%	250 28.3% 4.0%	毎年10.5円増加のペースを抑制 現状維持を目指す 現状維持を目指す